



群馬県コンクール 金賞

無農薬の田植えをした思い出

太田市立九合小学校 4年 肥土 裕司

去年の春、父とぼくは近くの田んぼを借りて、無農薬の田植えをしました。無農薬とは、農薬を使わずに育てる方法だと、父が教えてくれました。ぼくはそれを聞いて、どんな味なんだろうと、とてもわくわくしました。

田植えの日、父が田んぼに入り、苗を植える方法を見せてくれました。ぼくも早くやりたくなり、田んぼに入ると、どろに足がずぶずぶとすずんでいきました。それが気持ちよくて、楽しくて、はいていたサンダルをぬいで、父と笑いながら苗を植えました。

苗を植えるのは、かんたんだと思っていましたが、どろなので苗がたおれたり、水にすずんでしまったり、とても大変でした。でも、ゆっくりでいいよと、父が言ってくれたので、ていねいに苗を植えていきました。少しすずんでいたり、曲がったりしている苗もありましたが、列に並んでいる苗を見ると、がんばって植えたたっせい感がありました。そして、田植えの大変さと、難しさを学びました。お米の大切さを知ることができました。ぼくは、父といっしょに植えた苗がどう成長するのか楽しみになりました。

ぼくたちが植えた田んぼは、秋になると、黄金色になっていました。ぼくが植えた苗は、ちゃんと育つか心配だったけど、とてもきれいに黄金色にかがやいていて、うれしい気持ちになりました。父といっしょにイネかりをして、イネを干しました。自分たちで育てたお米は、きっとおいしいだろうなと思いました。

「今日は自分たちで育てたお米を食べよう。」

と父が言いました。ぼくたちが田植えをしたお米を食べる日が来ました。母がおちゃわんにご飯をよそってくれました。その味は、今まで食べたご飯で一番おいしい味がしました。どろの感しょく、苗がうまく植えられない思い出、黄金色のイネ、田植えの光景がよみがえりました。それは、特別な味でした。

無農薬の田植えをして、お米作りの大変さと、自然のめぐみを知ることができました。田植えという体験を通して、自然の大切さや、食べ物のありがたさを感じることができて、とても良かったです。